

市内中学生熱中症事故調査委員会

第7回 議事録

日 時 平成29年3月14日（火） 19：00～

場 所 生駒市役所401会議室

出席者：委員 5名（笠次委員長、川真田委員、清原委員、武山委員、
井上委員 19：20より参加）
事務局 5名（峯島部長、真銅次長、吉川課長、城野課長補佐、前田指導主事）

1. 案件

（1）提言内容について

委員：手元の資料1, 2, 3の確認。そして、資料1の内容を確認願う。2ページ目の「腋下」の「下」を「窩」に訂正願う。

委員：ほかにないか。

全員：特になし。

委員：資料2について

委員：表現の仕方について、死亡した事実についてどう表現するか慎重に行うべき。「検証」という言葉を使ってよいのか。

委員：病院に搬送されて以降のことが十分に調べられていないところで、死亡に結び付けることについての表記、そして検証という言葉を使ってよいのか。この2点についてどうか。

委員：なくていいのか。

委員：亡くなっているから本委員会が行われているのであり、表現に注意すべき。

事務局：「検証」という言葉を「課題の確認」としてはどうか。前回の会議で応急処置のことについて、熱中症に対する学校の応急処置については問題がないという確認がとれた。報告書に入れてよいか。

委員：検証を検討に変える。または調査ぐらいにとどめる。亡くなった事実は書かなければならない。誤解が生まれる。

委員：熱中症を発生させる原因はある。事故発生原因の究明が必要。

委員：調査委員会が医療関係を対象にしていけないということを入れておけばいいのではないか。読む人はどこに原因があるのかを考えながら読むのではないか。

委員：「亡くなられた」で文章を一度切り、搬送された事故として切り離しておく。

事務局：「学校管理下の事故」とすればどうか。

委員：報告書を読む人にはそれではわからない。表現を考えないといけない。

事務局：読む人にわかりやすくするという事か。

委員：表現はわからないが、読む人にわかりやすくしたい。何を期待しているのか考えなくではいけない。言葉が固い感じがする。

委員：法律の部分の用語、だれが読んでも一定の解釈がなされるものが必要。そこは、調整しながら考えたい。

委員：3行目について、「事故」と「亡くなられた」をひとつにしない。熱中症が発症し、救急車で搬送されたところまでにしたい。

委員：事故という言葉を使わないのはどうか。

委員：世間は事故とみているが「救急搬送され亡くなられた」で文章をいったん止め、この熱中症の発生原因の究明とするのがよいか。「死亡事故」という表記は嫌がられるが、「事故」という言葉は比較的寛大に取ってもらえる。表現を生かしたパターンと生かさないパターンで進めて全体の印象で考えてはどうか。

委員：最初の導入はとても大事なので、だれが読んでも誤解を招かない表現にするべき。

委員：熱中症への再発防止としか書かない方がいい。最後の3行の文章も変えた方がいい。

委員：4番の検証からの課題の中で、課題ではない部分も多くみられた。3番に移せるものが多くある。

事務局：調査から明らかになった事実と課題を抽出したらどうか。

委員：調査で明らかになった事実を加える。推測のものは削除する。

委員：推察されるという言葉は抜く。それは課題と提言に持っていく。

委員：3番目で練習内容について主語をはっきりさせた方がいい。5ページ3番のところ。

委員：もう一度最初から主語の確認をしてもらおう。

委員：「以下〇〇とする」という表現を使った方がいい箇所が多くある。

委員：7ページ。課題の整理について。②体力レベルではなく、体格も含めて「体格・体力」とする。

委員：「運動強度の設定に対する配慮不足」とした方がよい。

委員：課題の順番をもう少し整理できないか。

事務局：もう一度提言と合わせながら整理したい。

委員：資料3の提言の整理について。

委員：①への提言は、一般に肥満傾向の人ほど、劣った耐暑性や全身持久力を有することを学習する機会を設けるべき。しかし、だれに向けて提言するのか。

委員：学校、指導者、社会に対する提言。

委員：⑤空欄だが、本人の気質を把握しておく必要がある。

委員：⑩の水分補給の文中、強制的という言葉は強すぎる。自主的がいい。給水時間を設定することが必要。本人が飲める範囲でいいのではないか。

委員：体育必携には強制という言葉が出ている。学校現場では問題ないか。

委員：驚くほど給水する児童生徒がいる。今回の運動は1時間程度だったので、脱水が極

端に進むほど体水分は減少していないことが推察される。自分で自主的に飲水できる給水時間を設定することが大事なのではないか。

委員：では、⑩は、定期的に給水時間を設け、発汗量に見合った水分補給を行う。

事務局：本人への提言ではなく、指導するとしたほうがよい。

委員：「行うよう指導する」がよい。

事務局：⑩について、給水時間を設けることと、指導することを分ける。また考えておく。

委員：ほかにないか。

委員：体温測定に関する部分について、運動時に多量発汗を伴う場合、腋窩、もしくは口腔内で、一般に使われる体温計で深部体温を精度よく測定できない場合が多い。

委員：37.4度だから熱中症じゃないと判断されたくない。

事務局：みんな知らなかったことなので、入れたほうがよい。

委員：補足の⑱、⑲について、この表現でいいのか。

事務局：アクティブラーニングについては必修なのはわかるが、今までの話とは違和感がある。保護者がわかるような表現にできないか。

委員：気になるのは、聞き取りをしたときに、マニュアルが3つも4つもあるのに教員が理解できていたのかということ。体制としての在り方に大きな課題がある。先生方に何を知ってほしいかということが気になる。提言を学校現場へおろしていくことが大事。

委員：事故対応への指針を最後に入れていただきたい。現場がどう変わったのかを評価することは入れてはダメか。

事務局：PDCAサイクルを用意しなければならないと考えている。

委員：県は3年後に検証している。

委員：他にないか。

全員：特になし。

(2) 今後の予定について

事務局：提言内容について、また送信させていただき、加筆修正してもらったものを次回検討し、4月上旬に答申いただく予定である。

2. その他

・次回会議の日程

3月30日(木) 午後7時から 生駒市役所403会議室